

野ばら 9月号



より良いものを選ぶ

校長 夏見隆晴

生徒たちに対して「より良いものを選びなさい」と言うのが、わたしの口癖になっているようです。中学1年生から高校3年生まで、対する相手は異なっても、またその時その時の言葉に多少の違いがあっても、話している内容は同じで、「より良いものを選びなさい」と忠告しています。

考えてみれば、私たちは物心付いたころから、その時その時あれかこれかの選択をしながら生きてきたように思います。それならば「より良いものを選ぶ力がある」ということは、生きる力があるということになります。なぜなら、あれかこれかを選択する時、わたしたちは自分自身に問いかげながら選択しているからです。つまり普通は、自分との対話の中で浮かび上がってきた「より良いもの」の方を選びとっているのです。

高等学校の卒業を間近にしてこれから進学していく大学など、進路の選択の総仕上げを行っている高校3年生の生徒さんは、きっと十分自分との対話を重ねたうえで、お家の方々とも相談して、将来の生きる力の土台となる学校選びをしてくれたものと、わたしは固く信じております。今は、迷うことなく自分の選んだ道を、力強く進んで行って欲しいと願っています。そして「より良いものを」選びとったと、胸を張って見せてくれるでしょう。

言うまでもなく、進路の選択はひとり高校3年生だけのものではありません。ただし、学年が上がるにつれて意識が高まってくるのも事実です。相談相手となる担任や多くの教員、家族との話し合いも、より具体的なものとなります。しかし、わたしは生徒の一人ひとりがその前提として、自分としっかり対話して自分の夢を持って欲しいと願っております。それがたとえ今は「夢」であっても、自分の言葉でしっかり説明できるようなものであれば、実現の可能性は大きいのです。

夢と言えるような大きな目標に至る前に、その時その時に必要とされる小さな目標を設定できれば、夢の実現の可能性は大きくなります。大きな目標の実現とも言える夢も、過去の成功体験を土台として現実のものとなります。しかもその成功体験が直近のものである方が、より有利に働くと言われています。3年も前の成功体験では、効果は薄いと思わなければなりません。ましてや6年も前の成功体験では、頼りにすることはできません。

変えることのできない過去を頼りにするのではなく、自分の努力次第で報われる将来に向かって進むこと、そこに自分の到達点を設定するのです。小さな無数の成功体験だけが、大きな夢を実現に向かわせるのだということを信じたうえで、保護者や教員たちと正確な言葉で話し合えるようになれば、夢の実現はきっと現実のものとなります。今日という日も、より良いものを選び取り生きる力としてください。わたしも信じて待っています。

「表現」と「意識」

国語科 竹田 充

読解力をつけるためには、「表現」活動をするのが良い。要約・意見・感想などをまとめるのである。主体的な読みができる。分からない言葉があれば「表現」には繋がられず、調べなければならぬので、語彙力もつく。自ら「表現」するので分かったつもりではなくなる。「表現」に繋げることを考えると、要点を「意識」するようになる。「表現」を重ねていけば、自らの考えも「意識」し、整理でき、深まっていく。だから「表現」活動が良いのである。

スポーツで成果を挙げるためにも、「表現」活動が良い。「表現」活動というと堅苦しいが、「書く」「声を出す」「声を掛ける」ということである。大学の時、OB監督に、「ソフトテニスノート」を義務づけられた。自分のプレーを考える良い機会になったことを覚えている。野球の強豪校では「野球ノート」を作っている学校が多い。これは、自らの課題や目標を意識するため、同じ失敗を繰り返さないため、マネージャーや監督と情報を共有するためなど、様々な意味がある。今年甲子園に出場したある高校の監督は、「ノートと技術は比例する」と語っている。自ら書き、自ら確認する、他者に伝える、こんなことの積み重ねが成長に繋がるのである。プロ野球でキャンプ中に大声で決意表明をするチームがあるが、これも、自らを鼓舞し、チームを盛り上げるために有効なのである。また、普段の練習では声を掛け合う。この掛け合いが試合で成功したとき、とてつもない喜びに変わり、勝ちに繋がる。本校の選手にはこの気持ちを味わってもらいたい。

また、前述の監督は「書いて行動することが大切」とも語っている。スポーツだけでなく、年度初めやテスト前など、目標を書く機会がある。これを書いただけで終わらせた意味はない。常に「意識」し、具体的に継続していかなければならない。

今自分が学んだこと、やるべきこと、やっていることの意味を「意識」し、それを「表現」することで再度「意識」し、行動に移していくことで、達成感を味わい、成長する。だからこれを書いているのは私にとってチャンスである。生徒にも「意識」して取り組むことの意味をこれからも伝えていきたい。

9月の予定



日・曜日	行事計画
3日(火)	English Festival (終日)
4日(水)	※完全下校 16:30
11日(水)	小4・中3交流会 委員会活動
14日(土)	総合PUP⑥ Bene 駿台M①6年生 SS②4、5年生 中学2年生修学旅行説明会
18日(水)	※完全下校 16:30
21日(土)	オーストラリア姉妹校生徒受け入れ ~25日(水)
27日(金)	地区陸上 中学生 青パック 高校生
30日(月)	終業式 総合 2・5・6年生 遠足 1・3・4年生

生徒の頑張り！



7月27日(土)午後12時~15時までの3時間、パレット久茂地イベント広場において実施されました街頭募金活動は、91名の生徒が参加しました。炎天下、元気な声で呼びかけた結果、13万余の金額が寄せられました。その日のうちに東京の本部に送金され、8月上旬にはThanksカードも届きました。

活動に参加した皆さん、ご協力ありがとうございました。

全国大会出場

☆平成25年度全国高等学校総合体育大会(北部北九州総体)陸上女子400m走に出場した、佐久川まりあさん(高3)は、決勝進出はなりませんでした。大きな大会で自己ベストを出しました。

ご支援頂きました保護者の皆様、ありがとうございました。紙面をお借りして、お礼を申し上げます。

☆第16回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会沖縄県予選100mバタフライ第1位 二俣竣亮君(高2)

標準記録突破にて8月25日~30日東京辰巳国際水泳場にて開催の全国大会出場決勝進出はなりませんでした。ベスト記録を更新しました。

足あと

ある夜 わたしは夢を見た

神様と二人並んで わたしは砂浜を歩いていた……

砂の上に二組の足あとが見えていた

一つは神様の そして一つはわたしのだった……

しか、最後にわたしが振り返ってみたとき

ところどころで足あとが一组だけしか見えなかった……

「わたしの愛することもよ

わたしはけっして お前のそばを離れたことはない お前が最も苦しんでいたとき

砂の上に一组の足あとしかなかったのは わたしがお前を抱いていたからなんだよ」



m. パワーズ